

新たな地域コミュニティ支援事業にかかる区長評価について(HP公表資料(別紙1)作成のための様式)

【福島区】（受託者等:(一財)大阪市コミュニティ協会)

受託者等に対する評価

1 支援の内容及び効果等(1)

評価項目		区長評価	左記の理由
地域活動協議会 の 取組	(1)「地域課題への取組」にかかる支援の実施状況	B	・コロナ禍の影響で大きな進展は困難であったが、各地域活動協議会の自律的運営に向けた組織運営力の地域差を解消するため、会計や広報など地域担当者のスキルアップへの勉強会などに積極敵に取組み、一定の成果は現れているものと考える。 ・これまで地域活動に関りが薄い住民が地域を知り、これからのことを考えるきっかけとするために、各地域活動協議会において「地域ノート」を2地域で作成。地域の活動や統計、防災・防犯、医療、福祉など、区共通の情報や地域独自の情報を区社会福祉協議会や各関係機関と連携し掲載した。今後は更なる「地域ノート」の充実と有効活用に向けて自ら地域が協議し更新できるよう支援の継続を期待したい。 ・マンション居住者に向けて地域と連携し、町会加入を促進し加入につながったことは評価できる。「防災」をキーワードに地域とマンション居住者がつながる取組みを継続しながら、今後更に参画しやすい魅力ある取り組みが展開されるよう努められたい。
	(2)「つながりの拡充」にかかる支援の実施状況		
	(3)「Ⅲ 組織運営」にかかる支援の実施状況		

2 支援の内容及び効果等(2)

評価項目		区長評価	左記の理由
事業の実 施 体 制 な ど	(1－1)スーパーバイザー、アドバイザー及び地域まちづくり支援員の体制	B	・業務責任者(アドバイザー)と支援員で、地域の支援や状況の把握など役割分担のバランスが良い。 ・他区での支援方法と当区地域状況を見合わせながら、当区に合う支援内容を検討し、区役所からの要望にも的確に対処している。引き続き、情報共有などを迅速に行なえるように体制の維持・整備に努められたい。 ・支援事業者として地域からの信頼を得られていると感じる。コロナ禍で約3年間は事業展開や交流の機会を持つことが制限されたこともあり、関わる地域役員なども限定せざるを得ない状況であったが、今後は連携できる地域関係者の幅を広げて、更なる地域実情の把握と支援事業者が持つ実績をフルに活用できるよう支援に努めてもらいたい。
	(1－2)フォロワー(バックアップ)体制等		
	(2) 区のマネジメントに合った取組(区との連携)		

3 総合評価【全体】

評価項目	区長評価	左記の理由
上記の1～2を通して全体的な評価	B	・引き続きコロナ禍により地域状況も停滞している環境の中、積極的に地域へ出向き、地域との関係性を醸成してきたことは評価できる。区内全地域において、コロナ禍では事業実施は困難を伴うが、事業の再開に向け新たな手法も含めた支援と、地域実情に合わせた自律的な組織運営支援を継続してもらいたい。 ・地域の広報活動、情報発信について、課題を抱える地域に寄り添い支援されていることは評価できる。支援効果には地域差があるも、支援方法にも変化を持たせながら、定期的な情報発信がなされるように支援いただきたい。 ・各地域での自律的な会計事務は徐々にではあるが、区全体的な底上げが感じられる。 ・「地域ノート」作成については、身近な情報を中心に掲載するなど地域住民にとって役立つ内容となっており、ブラッシュアップしていくことにより、更なる活用が期待できる。今後は更新に向けた地域での協議が自律的に進められるような支援を期待したい。 ・今後は、マンション居住者など若い層と地域へのつながりづくりについて、具体的な支援内容を検討願いたい。

【区長評価】

- S：当区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準を大幅に上回っている。
- A：当区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準を上回っている。
- B：当区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準に概ね達している。
- C：当区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準を下回っている。